



としょかんの

古典文学講座 (源氏物語)

伊予市立図書館の古典文学講座をご存知ですか？
源氏物語を題材にしています。和歌をつくったり、般若心経にふれてみたり、楽しさあふれる時間です。

- 開催日 平成29年5月～平成30年3月の 毎月第1・3木曜日。計22回。
月によって第2週に開催することもあります。
※初回開催日は、平成29年5月11日(木)
- 時間 午前9時30分～午前11時
- 場所 伊予市立図書館3階 三世代交流室
- 内容 「源氏物語」 若菜(下)の巻途中から
- 受講料 年額4,000円(但し、特別な資料があるときは別徴収)
- 申し込み 図書館2階事務室まで、お申し込みください。
- しめきり 平成29年4月12日(水)まで

※ 初日にテキストをお配りします(継続の方はご持参ください)。筆記具は各自でご用意ください。
※ 変更がある場合は、その都度ご連絡します。



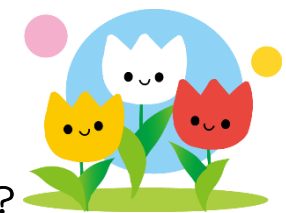
すべてのお問い合わせは
こちらまで
★★★伊予市立図書館★★★
〒799-3113 伊予市米湊 768-2
TEL: 089-983-4051
FAX: 089-983-4353
★★開館時間★★
火～金曜日 9:00～18:00
土・日曜日 9:00～17:00
★★休館日★★
月曜日、祝日、毎月平日の末日
(他の休館日にあたる場合は、その前後)
年末年始
(12月29日～翌年1月3日)
特別整理期間
(3月中に10日以内)



第9号 平成29年春号 伊予市立図書館

としょかんだより

まちにまった春が
やってきました！
春の風に誘われて、
図書館に
でかけてみませんか？



図書館では、
おはなしかいや、
古典文学講座も
開催しています！



としょかんの ウェルピア伊予の おはなしかい！ おはなしかい



毎月(予定) 第2土曜日 3階にて 10:30～
毎月(予定) 第3日曜日 ロビーにて 13:30～

4/8 6/10 4/16 6/18
5/13 5/21



図書館カレンダー(4月～6月)

□ 休館日 ☆ おはなし会 ○ 古典文学講座(源氏物語)

4月							5月							6月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
						1		1	2	3	4	5	6					①	2	3
2	3	4	5	6	7	8	7	8	9	10	⑪	12	⑬	4	5	6	7	8	9	⑩
9	10	11	12	13	14	15	14	15	16	17	⑱	19	20	11	12	13	14	⑮	16	17
16	17	18	19	20	21	22	21	22	23	24	25	26	27	18	19	20	21	22	23	24
23	24	25	26	27	28	29	28	29	30	31				25	26	27	28	29	30	
30																				

古典文学講座をのぞいてみよう！

伊予市立図書館では、古典文学にふれることによって作者のものの見方、当時の時代背景などを研究し、現代の生活をより豊かなものにするのをねらいとして、源氏物語の古典文学講座を開講しています。5月～翌年3月の11ヶ月で計22回実施しています。

講師の篠崎清志先生よりメッセージがありますのでお伝えします。



【篠崎先生のメッセージ】

昨年の「図書館だより」には「花散里」と呼ばれる個性豊かな女性を書きました。今回は源氏物語の女主人公と言われる「紫の上」を紹介します。

紫の上は理想の女性だとよく言われますが、本当に幸せに生きた美しい女性であったのでしょうか。多くの男女の恋愛が描かれますが、突き詰めていくと、愛の喜びと哀しみ、むなしさ、そして孤独を描き、幸せとは何かと問いかけているように思われます。

千年前、当時は一夫多妻の通い婚の時代、女性は扇で顔を隠し、立って歩くことさえ制限され、自由のない痛めつけられた時代です。

だが、意外にも、プライドを持って生きていたのです。紫の上は源氏が少女時代から、こういう女性に、こういう妻にしたいと思い、教育して育てた申し分のない女性です。こんな女性を手元に置きながら、源氏はすごく浮気で、紫の上はしょっちゅう、やきもちを焼きます。源氏は兄帝に対する恩から、やむを得ず女三の宮を正妻に迎えてしまいます。女三の宮は兄帝の皇女、年も若い、やきもちを焼かないはずはありませんが、源氏はこのやきもちをかわいいなどと言います。紫の上の内心、プライドは大変に傷つけられます。紫の上は実質上の正妻なのですが、所顯（今の披露宴）をしていないので、その立場は不確かなのです。しかし、賢い女ですから、感情を表に出さず、仲よくやっていけるよう、自分の方から挨拶に出向いたりします。紫の上の侍女たちの腹立ちは治まりません。厳冬の日に源氏が帰宅しても戸を開けず、懲らしめたりします。しかし、現実にそうなるのは仕方ありません。紫の上は悩みに悩んだすえ、「出家したい」と源氏に願い出ます。出家とは当時、俗世間との関係を断ち、苦悩から解放される唯一の方法だったのです。しかし、源氏は「私の方が出家したいのですが、あなたを守るために出家しないでください。」としゃべ返しをして出家を許しません。他の女たち（空蝉や朧月夜など）は、源氏を通してこない間にさっさと出家してしまいます。紫の上はプライドのなすわざか苦悩したまま、病気になり亡くなります。裕福で衣食住ともに、何不自由もない恵まれた生活の中にも、みんなそれぞれに苦悩がある、世にいう百八煩惱があるのです。

こう見てくると、紫の上は必ずしも、この上ない幸せを得た人とは言えない、苦悩から救われもしなかった不幸な女性だったのです。

現在にも、よそ目には、なに不自由なく、美貌で、この上ない人に愛され、幸せな女性だと見られながらも、その当人は、内に大変な苦悩を持ち孤独で不幸な女性もいることを、千年前に、幸せとは何かと問いかけ、女性の生き方とともに、片方の男の生き方も暗示してくれているのです。



銅賞 西山登美子
園児等の声聞こゆ窓
空高く
つとめて学ぶ 源氏の世界

銀賞 藤井公子
紫の慈悲ある愛を
受けとめて
若宮育てし 女御しあわせ

金賞 柏原啓子
たおやかに 雅の庭に
咲く花は
生えし二葉に 揺れて さわめく

講座で短歌を募集しました。入選作品の一部を紹介します。



●鬚黒について
「玉鬚十帖」に登場し、色黒で鬚が濃い。玉鬚に言い寄る有力花婿候補の一人。容貌で拒まれるが、まさかの結婚。勝者の座を奪う。見掛けは他候補と真逆だが出自や教養では遜色ない。まめで頑なな評価もあり、用意周到。源氏や冷泉帝相手に度胸もあった。（真木柱）
玉鬚を大切にし、子女に恵まれ満足な人生を終えた。だが、紫式部は、鬚黒亡き後の玉鬚に娘達の結婚（捨てきれない皇統への思い）での大きな誤算という試練を与えた。（竹河） 近藤 郁雄

●明石の君について
源氏が須磨へ流されていた時、明石の君との間に姫君誕生。源氏は許され都へ、明石の君と姫君も都へ呼ばれる。源氏と紫の上が、姫君を養育する事になり、明石の君は娘の将来の為に断腸の思いで我が子を手放す。成長した姫君は帝の女御に、若宮が誕生する。紫の上は、その世話役を明石の君に託す。娘と孫の世話の最高の幸せを得ても、出過ぎた事はせず、感謝の念で勤める。何時の世にも、思いやり、優しさは大切だと切に思います。 藤井 久美子

●夕霧について
源氏と葵の上との間に、生まれた嫡男・夕霧。時々物語に登場して、りりしく成長する姿を見せている。小説を読む醍醐味に、主人公にほれる楽しみがある。勝手に夕霧のイメージを作りあげてしまった。雲井の雁との純愛、実らせて、かっこいいと思っていたら、他にも美しい女性に目移りしている。夕霧は朴念仁のままがいい。妄想の中では、自分をうら若き女性の姿で、物語に登場させて、しあわせに、ひたっている。 園田 一恵

●六条御息所について
源氏より七才年上で前の東宮妃。非常に身分が高く、教養才能知性がずばぬけている。プライドが高く独占欲が強く、執念深く嫉妬深い女性である。源氏と夕顔との密会時には生き霊となり現れ、夕顔が犠牲となり、又、賀茂祭の際に葵の上の車との争いに負けて、夕霧出産後の葵の上も犠牲となる。自尊心が強く、素直な態度を見せる事が出来ない彼女をひどく哀れに思うし、困り者だが、こんなにも情熱的で一途な彼女に心ひかれるのはなぜだろう。 柏原 啓子

源氏物語から学び、幸せとは

